

# ひたちの文化

2	エッセイ⑩⑨ 佐藤 駿さん
3	日立市文化少年団ご紹介③
3	日々を詠む⑩② 選・評 山田 祥生さん
4	My 仕事⑩② 志お屋 井上 和裕さん



ふるさと探訪パートⅡ⑧③	5
10Qじいじさんのちょっと笑える夜空のお話し(最終回)	6
常陸国まつり歩き② 長江 慶治さん	7
55周年を迎えた日立市少年少女合唱団!	8



## 「朝日を浴びて」

撮影：中野 重隆さん（滑川本町在住）  
撮影場所：河原子海岸

以前、病気を患って入院生活を余儀なくされたことがある。病気が知らずの健康体が唯一の自慢だったことにとって、全く予期せぬ出来事であった。

担当医から聞いたこともない病名を告げられた時、まず戸惑いが訪れ、次に将来への不安が押し寄せてきた。自分は元の生活に戻れるのだろうか、そもそもこの病気が完治できるのか、どちらにしても子どもは諦めるよつだろつな、等々。

胸中を不安に占められて眠れない夜を過ごすことも多かった。そんな時には決まって部屋を抜け出し、ロビーの窓際から夜明けの海を眺めた。日立の海は美しい。水平線に近い空が徐々に白んでゆき、やがて綺麗な曙光が室内に差し込む。そんな景色を拝み無邪気に喜び日もあった。今思えば他愛もないが、病棟に閉じ込められた当時の自分は朝日を眺めることで生への活力を保とうとしていた。その後幸いにして病状が快復したのも、あるいは朝日の御利益だろつが。

3年前、一気に流行した新型コロナウィルスはその後も社会全体に暗い影を落とし続けた。家族や友人を失った人や、自身が感染し、今なお後遺症に苦しむ人も多いだろつ。だが、4年目に入り人類はウィルスの感染拡大防止と経済活動との妥協点を模索し、新しい道を切り拓こうとしている。夜明けが近いと感じている人はきっと私以外にもいるはずだ。

夜を乗り越えた者に、朝日は温かく柔らかな陽差しを均しく降り注いでくれるだろつ。

# 茨城、そして日立を更に盛り上げていきたい

佐藤 駿



佐藤 駿(さとう しゅん)

茨城県日立市出身  
シンガーソングライターを軸として活動しているが、自身の楽曲にダンスの振り付けをし、ダンス講師なども行う。またイラストレーターとしても活動。色鉛筆を使用したイラスト画やオリジナルグッズのデザイン等も行う。日立で開催されたイラスト企画展「ひたちのえたち」にも参加。



日立をイメージして制作した楽曲「ひたちのおと」

現在、活動の軸は音楽としていますが、学生時はむしろ音楽は苦手な分野でした。大学4年の部活引退後、父親と妹がギターをやっていただけもあり、ギターをやり始めました。

就職活動は2011年の東日本大震災の年で、軽井沢から全国に展開するホテルグループに就職することができました。そこで入社前の懇親会で同期と意気投合、みんなに何かしてあげたい、この思

いから、やったこともなかった作詞作曲に挑戦。音楽経験者の同期に協力をお願いして、楽曲作りが始まりました。翌年の入社後、研修最終日にその楽曲を披露したところ、涙してくれる同期の姿と大きな歓声、音楽の持つ力に魅了された瞬間でした。

ホテルマンとして業務をする傍ら、楽曲を作り続けて約5年が経過。音楽の道に進んでみたいと思うようになっていました。2016年に離職し、

厳しく、思うようなパフォーマンスが出来ない日々が続きました。

茨城を離れてからの何度目かの春、日立の桜を、みんなに見てもらいたい、そういった思いが生まれ、日立を舞台に楽曲「サククラ」のミュージックビデオを撮影しました。その「サククラ」をきっかけに、

地元イベントの出演依頼が多くなり2020年、12年ぶりに地元(日立)に帰ってきました。帰ってきたと同時に、コロナウイルスの影響で活動が制限される

中でしたが、沢山の挑戦をさせて頂きました。

これまでの音楽活動は弾き語りをメインにしていましたが、運動(体を動かす



茨城、日立を更に盛り上げるために結成されたチーム team ZemHoli(チーム ゼンホリ)



パティオモールイベントの様子

メジャーアーティスト「ゆず」さんの聖地である横浜を活動拠点として、東京の下北沢などにも通うようになり、しかし現実



イラスト企画展に展示していた色鉛筆画「ひたち!あつまれ!」

「IBRAKER」に振り付けを行いました。初めは友人2人に声をかけてスタートしたものが、茨城□ボッツ(□□バスケットボールチーム)のオープンニングパフォーマンスをきっかけに、メンバーを募り出来た

の川さくらアリーナでの感動は今でも記憶に残っています。最後に、この活動ができていいるのは、応援してくれている皆さんの優しさや笑顔が大きな力となっています。これからも応援よろしくお願います。皆さんで、茨城を更に盛り上げていきましょう。

この経験を生かせないかとダンスに目を向け、配信動画を参考にダンスを勉強。茨城PRソングとして作った「IBRAKER」に振り付けを行いました。初の川さくらアリーナでの感動は今でも記憶に残っています。最後に、この活動ができていいるのは、応援してくれている皆さんの優しさや笑顔が大きな力となっています。これからも応援よろしくお願います。皆さんで、茨城を更に盛り上げていきましょう。

## ほっこり! 素敵な出会い

### 小さなお客様

市民会館には日々多くのお客様が訪れますが、中には予想外の来客に職員が右往左往することもあります。

寒さ厳しいある冬の日のこと。一人のお客様が出入口の方を指さして「あれ、どうしようか...」。視線を向けると、そこにはフロアを悠々と歩く一羽の鳩。なぜここに鳩が?と混乱しつつも、飛び立たないように細心の注意を払いながら出入口へ誘導し、無事にお帰りいただきました。鳩も建物の中で暖を取りたかったのかもかもしれません。

またある夏の日、お客様を会議室に案内した時のこと。窓際に近づくと、いつの間に入り込んだのか、カーテンの裏から「ジジジッ」という蝉の鳴き声。窓を開けて追い払おうとした矢先、お客様の一人がさっと蝉を手で掴み、窓の外に放ちました。その時はお客様が取った素早く豪胆な行動と自分の立場を思い比べて恥じ入るばかりでした。

想定外のお客様(?)がお見えになった際も、平常心を失うことなく冷静な対応を取れるよう心掛けたいものです。

## まちのサロン 市民会館

### さまざまな文化に触れよう! 日立市文化少年団ご紹介 3

日立市文化少年団をご存じでしょうか?日立市では現在25の文化少年団がさまざまな分野で文化活動に取り組んでいます。どの団体も幼少期から多様な文化に触れ、日本の伝統文化や新しい生活文化を学ばせることを目的としています。また、次世代への文化の継承という意味でも文化少年団は大切な役割を担っています。毎月2団体ずつ、本誌面で紹介してまいります。

### 日立華道少年団

こんにちは!私達華道少年団は月に一度(第2日曜日)を稽古日として、きれいなお花をもっときれいに見える様、考えながら花器にさして学んでいます。

同じお花を使っていけるのに、お友達の作品がそれぞれちがって完成するのがおもしろいと思います。めずらしいお花に出会うたり季節を感じるいけ方も知りました。

下は小学一年生から上は高校二年生まで在籍し、長く続いている人は十年位やっています。お花の先生を目指しているお友達もいます。先生が優しく指導してく

れるので心配いりません。完成した生け花を順番で事務所の力ウンターに飾って友達に見てもらえるのが嬉しいです。



### 日立華道少年団の案内

活動日時 毎月一回 第2日曜日 10:00 ~ 11:30  
会場 日立シビックセンター 会議室  
参加資格 小学1年生から高校3年生までの日立市及び近隣の市町村に在住の児童・生徒(男女不問)で毎回通える方  
会費(参加費) 700円/月(お花代600円、雑費100円)  
申込方法 ハガキ(学校名、学年、生年月日、氏名、住所、電話番号を書いてください)  
申込先と 竹内 紀美子 〒316-0025 日立市森山町4-1-4  
問い合わせ TEL 0294-52-0348

### 日立市文化少年団能楽部

私たちは、第1回ひたちごども芸術祭から参加させていただいてあります。お稽古場は滑川町の個人宅の祐月庵舞台です。玄関を入ると国立能楽堂と同様な舞台です。能楽は、600年前から続く日本最古の総合芸術です。日本の歴史、文化、和歌、漢詩、礼儀作法等盛りだくさんに内包され、謡の言葉が理解されにくいのですが、子ども達は時空を超えて神や天人、天狗、狐に変身することができまます。能楽のリズムの大鼓、小鼓、太鼓、笛も学べます。謡をお腹から発声し、全身で力いっぱい舞います。

日立市立中里小中学校後期課程(中学校)の能楽は、コミュニケーション科(ことば)の活動として13年目を迎えます。楽器や舞を選択して、2か月間の集中稽古をして文化祭で発表、後期課程の3年間で能楽を身につけ

### 102 日々を詠む

《選・評 山田 祥生》

春のひと日、地元小学校の「チャレンジ教室」に講師として招かれた。三年生が対象であったが、俳句の約束ことなど説明後、校舎周辺を吟行。生徒達は草花に触れたり、校庭を眺めたりして指を折り始める。遣る気満々であった。当句は当日の作品の一つである。このような実務に育む授業も教育の大きな要素と感じた。

春の日にきらきら光る水たまり

ふうか



### 日立市文化少年団能楽部の案内

活動日時 年間を通して活動(活動日は教室ごとに異なる)  
会場 祐月庵舞台 日立市滑川町1-9-12  
艦神社参集殿(社務所) 火曜午後5:00~(月2回)  
会費 体験学習は無料 月3,000円  
参加資格 なし「元気のよいお子様から大学生まで」  
その他 祐月庵舞台は、木・土曜日にお稽古していますので、体験にいらしてください。(予約をお願いします)

問い合わせ 向洋会代表 後田洋子 0294-34-6216 090-3536-7465  
日立撃扇会 松本祐子 090-9816-4626

ます。能楽では、礼に始まり、礼に終わるを大切にしながら、活動に取り組んでいます。



着物文化を次世代に繋げていきたい

My 仕事 128

志お屋 代表取締役 井上和裕さん (千石町)

「変えていいものといけないものがあつて、そこはかなり意識して守っています」と話すのは、多賀駅前ずらん通りの呉服店・志お屋の代表取締役を務める井上さん。彼の言葉の端々からは着物文化への愛が感じられる。会社の経営理念は「不易流行」であるという。時代の流れに合わせて変えてゆくものと、変えてはいけない根底にあるもの。本記事を通して読者諸兄に伝えられれば幸いである。



るく元気にしてくる色が流行る時代もあります。そういった流行の傾向に対して、店に仕入れる商品の色調なども対応させています。

志お屋は昭和2年に私の祖父が興しました。創業当時からずっと千石町に店を構えていて、商いも着物を中心に扱い続けています。過去には雛人形を売っていた時代もあったので、総合的には和文文化に関わることを昔から続けていることになりましたね。

着物もファッション業界の一部ですから、やはり時代の風の潮流で支持される色や柄というものがあつます。モノトーンが人気を集めることもあれば、今年の流行色であるビバマゼンタのように明



上：昭和45年頃の志お屋 下：現在

対してのこだわりはずっと持ち続けています。お客様の好みもありますが、うちの店ならではのセンスを常に磨きながら商品を取り揃えています。今の時代、普段着として和服を着ることもなくなりまして、コロナ禍でフォーマルな場に着物を着て出る機会も減ってしまいました。フォーマルが主体になる時代もあればカジュアルが流行する時代もあつて、3〜4年のスパンで入れ替わりします。こだわ



艶やかで雅な店内

りを持って時代に合わせた商品を持っていく中で品質だけは守りたいと考えています。職人さんの伝統的な技術も守りたいのですが、今では職人の数が減ってしまいい作れないものが沢山出てきているのが現状です。そうすると今の時代に合わせた染色や織機の方法を取り入れられないといけないので、品質は守りつつ伝統技術を継承した新しい技法で作られたものを扱わなければいけません。また、絹や綿や麻といった天然素材由来の商品

そして人の手のかかったものには独特の温もり感が残ります。機械で自動的に作られた製品とは違いが明白に出るので、これからもひと手間かかったものにこだわって扱ってきたいです。

着物が敬遠される理由の一つに「履物が痛いから」という声があります。浅草の

とある草履(せうり)さんで履きやすい草履を扱っていると聞き、それを仕入れてみました。あのお客様がそれを履いて一日歩き回りましたが、履いていくことを忘れるくらい足が楽だったそうです。それからこの草履をずっと仕入れていますが、足への不安が無くなつたことで着物を着ることへのハードルが一段下がったことは、うちの店にとつてかなり大きな影響でした。

今の八十代以上の方は日常で着物を着ていた世代ですが、次の世代である五十〜六十代の方々は着物の知識を受け継いでいないんですね。近年、特に東京オリンピック開催が決まってから、日本文化をもつ一度見つめ直して世に発信しようという傾向が高まり、若い世代を中心に着物に興味を持つ人も増えてきました。ですが、着物に関して教えられる人がとても少ない

お金を貰えば終わりではないと思います。お客様にはご購入後も店に相談に来てもらいたいですし、着付けなど教えられたいです。できる限り教えたいです。「せっかく揃えていただいたのだから綺麗に着こなしてほしい」という思いに尽きます。お客様が着終わって最後に「お陰様で最後まで着崩れませんでした」「食事の時も楽でした」「皆から似合っていると褒められました」と言っていると聞いて初めて肩の荷が下ります。いい商売ができたなと感じる瞬間です。



和装小物がずらり



着物の加工リメイクもご注文承ります

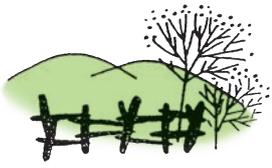
くなつてしまつた。そうすると私たち呉服業の人間が着物の歴史・文化から扱い方・着方を教えていかないと、結局束の間の流行で終わり、文化を継承できなくなつてしまつたのではないかと心配しています。ですからお客様には着物に関するさまざまなことをお話しして、その時の流行で終わらせないで次の世代に繋げていってもらいたいと考えています。

商いというのは売ってお金を貰えば終わりではないと思います。お客様にはご購入後も店に相談に来てもらいたいですし、着付けなど教えられたいです。できる限り教えたいです。「せっかく揃えていただいたのだから綺麗に着こなしてほしい」という思いに尽きます。お客様が着終わって最後に「お陰様で最後まで着崩れませんでした」「食事の時も楽でした」「皆から似合っていると褒められました」と言っていると聞いて初めて肩の荷が下ります。いい商売ができたなと感じる瞬間です。

# ふるさと探訪パートII- 83

## 黒坂命と土着民：国巢

海老沢 貴志 (株式会社みろっく)



角枯山(現名称：豎破山)はつわれさん)は日立市と高萩市の間にそびえる標高658mの山である。この山には巨石群、黒前神社、仁王門、奈々久良の滝など多くの名所があり、登山散策コース(約2、3時間)で手軽に楽しめる山である。

角枯山の名称は常陸國風土記・逸文(信太郡縁由)に出てくる。『黒坂命が陸奥の蝦夷を言向け、凱旋して多珂郡の角枯の山まで来た時、病のためにここで亡くなった。この時に角枯を黒前山と改めた。黒坂命の亡骸を乗せた車がこの山から日高見国に向かった。葬列の赤旗・青旗は入り交じって翻り雲を飛ばして虹を引き、野や道を輝かせたという。ここから幡垂(はたし)でこの国といったが後に縮めて信太の国という。』(常陸國風土記・現代語訳より引用)

夜都賀波岐)は土着の原住民である。佐伯とは「さへぎる者」すなわち天皇に従わなかった者である。佐伯らは、あちこちに穴を掘って土窟を設け常に穴に住んでいた。人が来るとすぐに窟に入って隠れる人が去ると外に出て遊んだ。その性質は、狼の性に鼻の情を持ち鼠のように窺い狗のように盗むというもので、一般の人々とは隔たりがあった。この時、大臣一族の黒坂命が、佐伯らが外に出ている時を窺って、その居穴に茨棘(うばら)を施しておき騎兵を以って急襲した。すると、佐伯らはすぐに土窟に走り帰り仕掛けられた茨棘にかかって身動きが取れずに死んでしまった。よって茨棘が由縁で県の名となった。』(常陸國風土記・現代語訳より引用)



太刀割石

常陸國には、安倍晴明生誕の地とされる場所が筑西市(旧明野町)にある。角枯山↓黒前山↓豎破山と歴史と共に名を変えた山。この山には黒坂命以外に八幡太郎義家伝説『大太刀で巨石を一刀両断した伝説』を残す太刀割石や古代の磐座『胎内石』など複数の不思議な伝説や奇岩が多く存在する。季節や景色を楽しむ登山もよい。さらに遠い昔を想像しながら山を探索すると数千年の旅を堪能できる。ふるさと常陸國は、謎と伝説ミステリーあふれる地域である。

インディ・ジョーンズの気分で常陸國を探検してみるのも面白いのかもしれない。



常陸國風土記・茨城略記【國巢の伝説(茨城の由来)】『古老が曰く、昔国巢(クス)があり、その名を山の佐伯・野の佐伯ともいう。これは土地の言葉でツチクモ(土蜘蛛・都知久母)またはヤツカハギ(八束脛・連)していた。土着の原住民(国巢)とは、どんな人々だったのだろうか? 黒坂命は、茨城の由来にも関連していた。』

土着の原住民(国巢)とは、どんな人々だったのだろうか? 黒坂命たち大和民が来る前の常陸國は蝦夷の境であった。その痕跡は地名にも残る。

葛という漢字で考察。葛の葉は、伝説上のキツネの名前。葛の葉狐(別名：信太妻とも)。また葛の葉を主人公とする『人形浄瑠璃および歌舞伎の『蘆屋道満大内鑑』も通称「葛の葉」である。また稲荷大明神(宇迦之御魂神)の第一の神使であり安倍晴明の母とする説もある。

なんと葛から信太妻、信太の由来になりそうな説や安倍晴明の母と繋がった。実は



胎内石



◎ 宇宙旅行に行きたいな

宇宙旅行。素敵な響きですね。一度でいいから宇宙に行ってみたいという方はかなりいらっしゃるのではないのでしょうか。では、どこまで行ったら「宇宙旅行をした」と言えるのでしょうか。これには宇宙の定義が関わってきます。現在は、地上から100km以上の空間を宇宙と呼んでいます。ちなみに日本の宇宙飛行士も滞在した国際宇宙ステーションが地球を周回している高度は約400kmです。飛行機の飛び平均高度が約10kmと、このことを考えると上空400kmはかなり遠く感じるかもしれませんが、長さと考えると東京と大阪間の距離くらいです。意外と近いと思われる方もいらっしゃるでしょう。そこまではいかなくても、最近日本でも気球による「ほぼ宇宙旅行」が予定され募集が始まっています。ヘリウムガスが詰まった気球が到達する高度は25kmほどということですから宇宙とは言えませんが、地球の丸みを感じることはできそうです。飛び立ってから戻ってくる



まで4時間の旅、いかがですか。通常、宇宙にはロケットで行くわけですが、宇宙に行くにはそのスピードが大切です。野球の大谷選手がどんな剛速球を投げてもどんなに大きなホームランを打ってもボールは落ちてきます。私たちが投げたり打ったりするスピードではボールを宇宙に飛ばすことはできません。地球の重力に負けてしまうから

では、どのくらいのスピードなら宇宙に行けるのでしょうか。地表に落ちずに地球を周回できるスピードを第一宇宙速度と言います。秒速7.9kmです。時速に換算すると28,400km。ラ

イフル銃の弾丸の5倍以上のスピードです。ですから国際宇宙ステーションは90分で地球を一周できるのです。しかし、この速さでは地球の周りを回ることしかできません。月や他の惑星に行くにはもっと速くなくてはなりません。これが第二宇宙速度です。地球の重力から解放されるスピードです。つまり、地球の周りではなく太陽を回る惑星軌道に乗ることです。秒速11.2km、時

速40,300kmが必要になります。これは旅客機の50倍のスピードです。しかし、それでも太陽系からは脱出できません。太陽系全質量の99.86%を占める太陽の重力は強大です。そこから脱出するには第三宇宙速度が必要です。秒速16.7km、時速60,100km、このスピードを達成して太陽系外に飛び出した探査機で現在でも稼働しているのが、1977年に打ち上げられたボイジャー1号、2号です。人類が作った最速の人工物であるボイジャーは、間もなく打ち上げから50年を迎えようとしています。現在でも第三宇宙速度以上のスピードで飛んでいます。この後も宇宙を飛び続けボイジャー1号は地球から一番速い人工物になり、ボイジャー2号は地球上から見えない恒星で一番明るいおおいぬ座のシリウス(地球からの距離8.4

光年)に4光年まで近づくとされています。とは言え、あと30万年くらいかかるそうです。その時人類は存在しているのでしょうか。

現在の技術では人類はまだ遠い星には行けないようですから、実績のある月、可能性のある火星から始めましょうか。

現在の技術では人類はまだ遠い星には行けないようですから、実績のある月、可能性のある火星から始めましょうか。



日立市民会館 催し物ご案内

**第30回 ひたちBigBandフェスティバル**

日時 **5月14日(日)** 午後1時30分開演

会場 **日立市民会館ホール**

チケット 全席指定 500円  
(日立・多賀市民会館窓口にて  
4月22日(土)午前10時販売開始)

市内外アマチュアビッグバンド7団体によるコンサート。スタンダードジャズ、ラテン、ポピュラー、映画音楽などをゴージャスなビッグバンド・サウンドでお楽しみください。

**仮面ライダースーパーライブ2023**

日時 **6月4日(日)**  
午前11時・午後2時30分開演

会場 **日立市民会館ホール**

チケット 全席指定 一般 3,800円(当日200円増)  
シビックメンバーズ 3,600円(特別会員3,500円)  
3歳未満膝上鑑賞無料

目の前で繰り広げられる超絶バトルに大興奮!! 完全オリジナルストーリーで、テレビや映画とは一味違った仮面ライダーの活躍が見られます。子どもから大人まで家族そろってお楽しみいただける迫力満点のスペシャルなライブステージです!



# 55周年を迎えた

## 日立市青少年少女合唱団!

昨年11月に設立55周年を迎えた日立市青少年少女合唱団。2001年から20年以上団長として団を支えてきた川崎壽光さんに代わり、今年度から、声楽家として活躍されている大津香



設立50周年記念定期演奏会の模様

津子さんを新たに団長に迎えることになりました。

日立市青少年少女合唱団は1967

(昭和42)年に青少年問題協議会において「社会を明るくする運動」のハイライトとして発足し、以来演奏会や日立市内外でのさまざまなイベントに出演し、地域住民から愛されてきました。

しかし、新型コロナ

ウィルスの影響で令和2年度は活動自粛を余儀なくされ、集まって歌うことができない期間が続きました。間が続き団員が減少。コロナ禍以前の半分以下になってしまいました。3年度は練習を再開しても声を出して歌うことができず、それ以外にできることとして、ボディパーカッションや手話ソングに取り組みなど、状況を逆手に取り表現の幅を広げ、昨年から歌うこともできるようになり現在に至ります。

去る3月26日には、定期演奏会「あいあいコンサート」が日立市民会

館にて行われました。

「あいあい」とは、「歌を愛し、友達を愛する」から名付けられています。

今回の演奏会は、「大切なもの」なかま・ふるさと・きぼうをテーマに55周年記念コンサートとして開催し、ボディパーカッションや手話ソングを含め30曲近くを披露。この日のために駆け付けた卒団生・在籍経験者と、合唱体験教室参加者との合同ステージ和やかに幕を閉じました。

現在も団員募集中で、ジュニアクラス(小学生)が10名、シニアクラス(中学生)が4名、計14名が在籍しており、毎週土曜日に中小路交流センターで練習しています。

活動できなかつた時期を乗り越え、新しい音楽の表現も身につけながら再び歩み始めた同団に、これからますます子どもたちの歌声と笑顔が広がりますように。



### 私たちの文化のバックナンバー

財団HPにて好評掲載中!



(<http://www.civic.jp/hitachi/magazine>)

### 編集後記

◆ここ最近のお気に入りの習慣は、寝る時にスマホで睡眠音楽をかけること ■性分なのか、これまでは目を閉じてもなかなか眠りにつくことができず、ストレッチが溜まってさらに眠れないという悪循環に陥っていた ◆ある時動画サイトで見つけた「睡眠用BGM」を、物は試しと思いかけてみた。すると5分もたないうち意識は深い水の底へ ■それ以来すっかり睡眠用BGMの虜に。いろいろ試してみたが、波のループ音を流す時の寝付きが一番良い気がする ◆そういえば、昔実家で暮らしていた頃は部屋の前を流れる小川の音が絶えず聞こえていたナア。そんなことを思い返した ■今夜はどのBGMをかけて床に就こうか。ささやかな楽しみが一つ増えた今日この頃。(A)

「100じいさんのちよつと笑える夜空のお話」はきりぎりすの音で始まります。あいがの音で終わりました。

### 表紙の写真



朝焼けの中、波乗りで没頭する若者。質の良い波を求めて、サーファーが一年を通して訪れる日立の海岸。中でも河原子海岸の北浜はサーフスポットとして根強い人気を誇る。彼は今日、良い波に乗ることができたろうか。

写真は滑川本町にお住まいの中野重隆さん。ふるさと日立カレンダー応募作品より拝借しました。

発行 公益財団法人日立市民科学文化財団 「私たちの文化」編集委員会

〒317-0063 日立市若葉町1-5-8 日立市民会館内  
TEL 0294-22-6481 FAX 0294-22-6633  
HPアドレス <http://www.civic.jp>

※ご意見・ご感想をお寄せください。

